

こんしゅう　ほう　し　しゃ
今週のことば「奉仕者」

せいしょ　し　と　げんこうろく
《聖書》使徒言行録 6:1-7

し　ご　で　し　あつま
イエスの死後まもなく、弟子たちの集
きょうかい　せつりつ
りによって教会が設立されました。しか
で　し　きょう　わくない
し、弟子たちはまだユダヤ教の枠内にと
いっばん　じん　おな
どまっいて、一般のユダヤ人と同じく、
しんでん　まい
エルサレムにある神殿に参っていました。
た　し　と　しんでん　ちゅうしん
ペトロや他の使徒たちも、神殿を中心に
せんきょうかつどう
して宣教活動をしていました。
せいしょ　なか　で　し
聖書の中には、イエスの弟子として、
じゅうににん　し　と　で　し
「十二人」や、「使徒」や、「弟子」と
ひょうげん　ことば
いった表現がみられます。これらの言葉
ふく　かた
は、それぞれの含みをもって語られてい
ます。

じゅうにし　と　やくわり　かた
十二使徒の役割については、ユダの代
えら　じゅうげん
りに、マティアを選ぶにあたっての条件
せいしょ　つた
が、聖書に伝えられています。

し　も　せいかつ
「主イエスがわたしたちと共に生活さ
あいだ　せんれい
れていた間、つまり、ヨハネの洗礼のと

はじ　はな　てん
きから始まって、わたしたちを離れて天

あ　ひ　いっしょ
に上げられた日まで、いつも一緒にいた
もの　なか　ひとり
者の中からだれか一人が、わたしたちに
くわ　し　ふかつ　しゅうにん
加わって、主の復活の証人になるべきで
し　と　げんこうろく
す。」(使徒言行録1:21-22)

じゅうにし　と　やくわり　し　ふかつ　しゅうにん
十二使徒の役割は、主の復活の証人と
いの　み　ことば　ほうし　せんねん　こと
して、祈りと御言葉の奉仕に専念する事
なのです。

きょうかい
エルサレムにおけるキリスト教会にも、
こ　はな　じん　かず　ふ
ギリシャ語を話すユダヤ人の数が増える
もんだい　お
につれて、いろいろと問題が起こってき
ひとびと　しよくじ　せわ
ました。そこで、人々の食事の世話をす
ななにん　えら
るために、ステファノたち七人が選ばれ
ました。

きょうかい　おお
教会が大きくなればなるほど、それぞ
ふんたん　ほうし　こと　ひつようせい
れ分担して奉仕する事の必要性がでてく
じ　ふん　ほうし　ば
るのです。それぞれ自分の奉仕する場が
かなが　ば　じ
どこであるかを考え、それぞれの場で自
ぶん　わくわり　は
分たちの役割を果たしていきましょう。

ふかつせつだい　しよくじ　ねんたい　ちゅうどく　たきの
復活節第5主日A年第1朗読(滝野)